

企画セッション（無料公開） | 委員会セッション：倫理委員会

■ 2017年3月27日(月) 13:00 ~ 14:30 | 会場 16号館 16-204教室

■ [1D\_PL] 「原子力は未来技術たり得るか」の検討

座長：大場 恭子 (JAEA)

[1D\_PL01] 社会から受容される原子力に向けて

\*芹澤 昭示<sup>1,2</sup>、齊藤 泰司<sup>1,3</sup> (1. JSPS、2. 京大名誉、3. 京大)

## 倫理委員会セッション

「原子力は未来技術たり得るか」の検討  
Study for "Can nuclear energy be a future technology"  
**社会から受容される原子力に向けて**  
Struggling for Social Receptivity of Nuclear Technology

\*芹澤昭示<sup>1</sup>、\*齊藤 泰司<sup>2</sup>、歌野原 陽一<sup>3</sup>、小澤 達也<sup>4</sup>、北田 孝典<sup>5</sup>、今野 眞樹<sup>6</sup>、澤田 佳代<sup>7</sup>、  
真鍋 勇一郎<sup>5</sup>

<sup>1</sup>京大名誉、<sup>2</sup>京大炉、<sup>3</sup>INSS、<sup>4</sup>川崎重工、<sup>5</sup>大阪大、<sup>6</sup>三菱重工、<sup>7</sup>名古屋大

原子力の社会受容性向上に必要と考えられる要件について、日本学術振興会先導的研究開発委員会「原子力は未来技術たりえるか」において議論した内容について述べる。

**キーワード：安全性向上、核セキュリティ、社会受容性、リスクコミュニケーション**

## 1. 緒言

東京電力福島第一原子力発電所事故を経た現在、原子力技術の今後については、単なる技術論を越えて、社会受容性、社会/経済システムの在り方、今後のエネルギー政策などを含めた極めて多角的な議論が必要となっている。日本学術振興会先導的研究開発委員会「原子力は未来技術たりえるか」（委員長：芹澤昭示）は、産・官・学界の若手研究者・技術者が集まり、原子力をあらゆる角度から見つめ、自由闊達な意見交換・議論を深化させる場を創出し、深く幅広い知見と倫理観を共有することを目的に設置された。本委員会では、幅広いテーマを取り上げた講演会、WG 活動、委員自身の研究紹介、グループ討論、原子力関連施設の視察研修などを行った。WG 活動については、2 つの WG が設置され、抽出した論点に基づいて各々の提言をまとめた。本稿では、委員会の設立趣旨と活動概要および第 2WG で得られた意見を中心に述べる。

## 2. 委員会活動について

本委員会は 2013 年 10 月 1 日～2016 年 9 月 30 日までの 3 ヶ年として設置され、12 回の幹事会、13 回の委員会活動（11 回 31 件の講演会、3 回の現場視察研修を実施）を行った。講演会においては、毎回主テーマを設定し、原子力推進・反対を問わず、第一線の講師を産・官・学界から招き、活発な討論と多様な議論を通して、理解を共有するように努めた。さらに、原子力事故の実態及び原子力技術開発の現状を肌で感じ理解するために東京電力福島第一原子力発電所および六ヶ所再処理工場、中部電力浜岡原子力発電所等々の視察研修を行った。

WG 活動では、関東地区（第 1WG）と東海・関西地区（第 2WG）においてそれぞれ自由な討論活動を行い、主に原子力技術の社会受容性を中心に意見を集約した。詳細は、委員会報告書[1]を参照されたい。

## 3. 第 2WG における主な論点

第 2WG では、主に、「原子力が社会に受容されるに必要な技術」と「原子力の社会受容性向上に必要と考えられる要件」について、多角的に検討を行い、特にリスクコミュニケーションによる合意形成における問題点、原子力技術の新たな展開、原子力事故即応部隊の設立について意見をまとめた。

## 参考文献

[1] 日本学術振興会先導的研究開発委員会「原子力は未来技術たりえるか」報告書（2016）

\*Akimi Serizawa<sup>1</sup>, \*Yasushi Saito<sup>2</sup>, Yoichi Utanohara<sup>3</sup>, Tatsuya Ozawa<sup>4</sup>, Takanori Kitada<sup>5</sup>, Motoki Konno<sup>6</sup>, Kayo Sawada<sup>7</sup>, Yuichiro Manabe<sup>5</sup>

<sup>1</sup>Kyoto Univ., <sup>2</sup>KURRI, <sup>3</sup>INSS, <sup>4</sup>KHI, <sup>5</sup>Osaka Univ., <sup>6</sup>MHI, <sup>7</sup>Nagoya Univ.